慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	翻刻 :「石橋湛山日記」1936年4月～6月
Sub Title	Transcription : The diary of Tanzan Ishibashi from April to June 1936
Author	牧野, 邦昭(Makino, Kuniaki) 上田, 美和(Ueda, Miwa) 望月, 詩史(Mochizuki, Shifumi)
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2025
Jtitle	三田学会雑誌 (Mita journal of economics). Vol.118, No.2 (2025. 10) ,p.237 (113)- 255 (131)
JaLC DOI	10.14991/001.20251001-0113
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20251001-0113

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「三田学会雑誌」118 巻 2 号（2025 年 10 月）

資　料

翻刻：「石橋湛山日記」1936 年 4 月～6 月

牧野邦昭 *　　上田美和 **　　望月詩史 ***

本翻刻は『三田学会雑誌』118 巻 1 号に掲載された，国立国会図書館憲政資料室所蔵「石橋湛山文書（その一）」875「石橋湛山日記」1936 年 1 月～3 月翻刻の続きである。

凡　例

①人名以外の旧字は常用漢字で表記した。
②仮名遣いは原史料通りに表記した。
③石橋湛山による文章の順序の入れ替えは整序して表記した。
④石橋が引いたと思われる下線や波線は表記した。
⑤「，」「。」「　」（1 文字分空白）は区別して表記した。
⑥石橋による見え消しの痕跡は翻刻に残した。
⑦改行や空白の行も原史料での表記を尊重した。
⑧明らかな表記の誤りには〔ママ〕を付けた。
⑨推測箇所には〔ヵ〕をつけた。
⑩判読不可能な文字は■で表記した。
⑪日記中に登場する東洋経済新報社社員の入社年の判別には『東洋経済新報社百年史』（東洋経済新報社，1996 年）所収の「入社年次社員一覧」を用いた。
⑫日記原文は横書きである。
⑬翻刻者による注記は，〔　〕で表記した。
⑭文の折り返しについては，原文の通りではなく，本誌の書式に合わせた箇所がある。
⑮人名の姓は新字で表記する。ただし，「辺」「邉」「邊」や「斉」「斎」「齋」「齊」などの区別は原文の表記とする。名の表記は旧字も含め，原文の表記とする。

翻　刻

四月一日（水）

午前 7 時前起床。8.48 電車にて出社。Review of the Month 執筆。午後編輯会。
夜 海浜ホテル(1)にて伊藤前駅長，鈴木新駅長 歓送迎会。

＊　慶應義塾大学経済学部
＊＊ 共立女子大学国際学部
＊＊＊同志社大学法学部

Copyright©2025, by the Keio Economic Society

四月二日（木）

午前 7 時前起床 午前 9.3 電車にて出社。

正午 午餐会 馬場医学士講演。Review of the Month 執筆。

午後 6.30 より山口東京電気社長[(2)]宅にて迫水前首相秘書官[(3)]を招待して会合。三浦及予同席。10 時まで談話。

〔1 行空き〕

岡田首相官邸脱出前後の事情聴取。

〔1 行空き〕

本日 公債売止の旨 日銀発表[(4)]

四月三日（金）

午前 7 時前起床。午前 8.23 電車にて 梅 湛一 ウタ子 和彦一同と共に社家族会に出席 夕刻終る。東京駅にて食事帰宅。

帰宅後灸点。

四月四日（土）

午前 7 時前起床。朝食後灸点。10.23 電車にて出社。書面等認め。

岩井尊信氏[(5)]来社，仙台へ転任の由。

午後 2.30 より丸ノ内中央亭にて日本国際協会の為め講演[(6)]。5.07 電車にて帰宅。

夜 主婦之友の為め 400 字 1 枚原稿執筆[(7)]。

四月五日（日）

午前 8 時前起床。在宅終日倶楽部講演速記修正（最近の時局と我財政及経済の前途）

午後 6 時より二楽荘に於て湘南組合の為め，箕輪〔焉三郎〕安斉両氏を招待懇談。当方，大塚〔尚〕，白井〔五郎〕，山中及予出席。

〔1 行空き〕

朝食後灸点。

四月六日（月）

午前 7 時前起床。朝食後灸点。

午前 9.53 電車にて出社。講演修正。

来客及雑用多し。

〔1 行空き〕

夜 宅にて講演修正継続，12.30 終る。

〔1 行空き〕

本夕 日銀利下発表[(8)]

---

(1) 鎌倉海浜ホテル。1887 年創立の鎌倉海浜院（のちに海浜ホテル）が前身（鎌倉市市史編さん委員会編『鎌倉市史 近代通史編』吉川弘文館，1994 年， pp. 137–141）。

(2) 山口喜三郎（1874–1947）。実業家。のち東京芝浦電気（東芝）初代社長。

(3) 迫水久常（1902–1977）。大蔵官僚。1934 年から岳父岡田啓介首相の秘書官。のち大蔵省・企画院で革新官僚として活躍し，石橋が中心となって設立された金融学会（現・日本金融学会）にも参加。鈴木内閣では内閣書記官長として終戦に尽力。戦後は衆議院議員，参議院議員となり石橋派として同派の経済政策案作成にも関与。池田内閣で経済企画庁長官，郵政大臣。

(4) 4 月 2 日に日本銀行は 4 分利公債の売却中止（売止）を発表した。

(5) 岩井尊信（生没年不詳）。逓信省官僚，通信技師。石橋の妻うめ（梅子）の兄（石澤誠一「石澤久五郎——湛山と歩んだ自由主義者——」『自由思想』24 号，1982 年，p. 52）。

(6) 講演題目は「我が経済財政の現在及将来」（『国際知識』16 巻 5 号，1936 年，p. 152）。

(7) 「論文目録」（『石橋湛山全集』第 15 巻，東洋経済新報社，1972 年，所収。以下，『全集』⑮と略記）には未掲載。なお『婦人之友』5 月号に「馬場財政と株式市場」を発表。

(8) 二・二六事件以後，深井英五総裁の下で日本銀行は財政コスト低下のための低金利政策を実施した。

四月七日（火）

午前 6 時起床。朝食後灸点。午前 9.23 電車にて出社。社説（日銀の公債売止解除の方法と今後の日銀利下の標準）[9]執筆 午後 6.30 終る。

6 時 53 分電車にて帰宅。

夜宅にて読書等，夜 11.30 まで

〔1 行空き〕

本夕 五分利債 3 分 50 に借替の旨発表

四月八日（水）

午前 6 時起床。朝食後灸点。

午前 10 まで著書原稿整理。10.23 電車にて出社。来客雑用等。

午後編輯会に一寸出席。3 時すぎ日産本社にて鮎川[10]氏に面会，先般社への寄贈物につき謝礼且つ将来を依頼等。

午後 5.23 電車にて帰宅。著書整理。

四月九日（木）

午前 7 時前起床 朝食後灸点。10.53 電車にて出京。村山医院訪健康診断を受く。

Allen 教授依頼の調査（永峰執筆）を見る，書き直ほしを要す。伊太利中央銀行総裁親族の Dott〔Doct.〕. Francesco Tamagna[11]来社。日本の財政及金融制度調査の希望。

午後 6 時より階〔ママ〕楽園にて雑音会，津嶋前大蔵次官[12]招待。

〔1 行空き〕

和彦友人の早大入学につき杉森[13]氏に依頼。

〔1 行空き〕

本日，前原民彦及畔田明[14]両氏に前者は和彦の診療謝礼。後者は快気見舞の為め贈物を為す。

四月十日（金）

午前 7 時すき起床。朝食後灸点

午前 9.53 電車にて出社。午餐会松井〔ママ〕某氏の独逸談[15]。

午後 5 時より産業統制問題座談会[16]夜 10 時まで。実業家連招待。

---

(9) 『東洋経済新報』4 月 11 日号「社説」（『全集』⑮，p. 124）。

(10) 鮎川義介（1880–1967）。実業家。日本産業株式会社社長として日産コンツェルンを築く。

(11) イタリア出身でアメリカで活躍した経済学者のタマニア（Frank M. Tamagna (1991 年死去)）と考えられる。タマニアはイタリアのパビア大学を 1934 年に卒業後イエール大学で経済学を学び，同大学在学中に奨学金を得て中国と日本で調査を行い博士号を取得。その後イタリア銀行，ニューヨーク連邦準備銀行に勤務。戦後は GHQ 顧問となったほか，連邦準備制度職員，アメリカン大学教授（“FRANK M. TAMAGNA DIES AT 81” *The Washington Post*, 1991.5.7.(https://www.washingtonpost.com/archive/local/1991/05/07/frank-m-tamagna-dies-at-81/d26a4de3-10ed-458a-bd2e-47a5ef2bf238/)）。GHQ では新円切り替えやマーカット経済局長の指示により 1946 年 3 月の日本経済再建構想 “Economic Program for Japan” の作成などに関わった。

(12) 津島寿一（1888–1967）。大蔵官僚。岡田内閣の大蔵次官。のち小磯内閣，東久邇宮内閣で大蔵大臣。戦後は参議院議員となり岸内閣で防衛庁長官。

(13) 杉森孝次郎（1881–1968）。社会学者，政治学者。石橋と同じ田中王堂門下。当時，早稲田大学教授。

(14) 畔田明（1885–1936）。政治家。

(15) ボン大学名誉教授 松本徳明。講演タイトルは「ナチス第三帝国成立前後の状態」とある（社団法人経済倶楽部『経済倶楽部 50 年』1981 年，上，p. 162）。

四月十一日（土）

午前 8 時起床。午前 9.53 電車にて出社。正午 Christian Science Monitor 東京特派員 Chamberlain 氏[17]来 花園と同伴 午餐を共にし会談。午後 2 時より婦人経済会に同氏も出席会談。

午後 6.20 電車にて帰宅。夕食後灸点。

四月十二日（日）

午前 8 時起床。大磯鈴木氏より電話あり。昼すぎ仝氏山荘に赴く。妻，湛一，ウタ子同伴。夕刻 妙太寺 飯久保師[18]訪。夕食の饗応を受け帰宅。

帰宅後灸点。

四月十三日（月）

昨夜就床後セキ甚だし。今日雨降り寒気強し。終日臥床。

夜 銀行倶楽部にて馬場蔵相[19]の会合ありしも欠席。

四月十四日（火）

午前 11 時向山医院にて診察を受く，大した事なし。終日臥床。静養。

四月十五日（水）

終日臥床。静養。午後灸点。

四月十六日（木）

午前 6 時起床。ラヂオ体操。午前 10.20 電車にて出社。

社にて時事新報の為め原稿執筆[20]夕刻郵送。

午後 6 時より雨月荘にて迫水 久保[21]両前秘書官を主賓とし東京電気山口社長等招待宴会。

本日頭悩〔ママ〕悪しく筆進まず。仕事多く神圣衰弱か。

今週雑誌（三倍号）[22]執筆者手違の為め大遅延本日午後漸く校了の由。

四月十七日（金）

午前 6 時起床 ラヂオ体操。午前 8.23 電車。成城に馬場医学士訪 灸点変更。昼食の饗応を受け午後出社。午餐会講演（梶井逓信工務局長[23]）を少しく聞く。終つて編輯雑用。

見城氏来談 英文雑誌援助の件につき有賀氏に話し呉れたる由。

（16）「当業者に統制経済を聴く――国家統制か自治統制か――」。出席者は，池尾芳蔵，石川昌次，山本為三郎，鮎川義介，水田政吉，森矗昶，住田正一（『東洋経済新報』1936 年 4 月 18 日号「座談会」）。

（17）William Henry Chamberlain (1897–1969). ジャーナリスト，歴史家。もと社会主義者だったがソ連やナチスドイツに滞在して全体主義批判に転じた。

（18）妙太寺は山梨市川大門の日蓮宗寺院。「飯久保師」とは飯久保義学で 1945 年 9 月に没（『石橋湛山日記』上，pp. 99, 140）。

（19）馬場鍈一（1879–1937）。大蔵官僚，政治家。当時，広田内閣の大蔵大臣。軍事費支出を大きく増大させた馬場財政で有名。

（20）「財政計画作成の方法」『時事新報』1936 年 4 月 18 日付「財界時評」（『全集』⑮，p.124）。

（21）久保文蔵（1898–1954）。大蔵官僚。岡田内閣の高橋是清大蔵大臣の秘書官。

（22）『週刊東洋経済新報』1702 号（1936 年 4 月 18 日発行）は「春季三倍号」だった。

（23）梶井剛（1887–1976）。逓信官僚。のち日本電気社長，日本電信電話公社初代総裁。

午後 7 時より東京織物同業組合にて講演[24]。午後 10.30 帰宅。灸点。

四月十八日（土）

午前 5 時 30 起床 八幡宮まで散歩。桜は既に終る。朝食後灸点。11 時まで宅にて著書原稿整理。11.23 電車にて出社。著書原稿整理継続。

午後 4.30 より倶楽部晩餐会。伍堂中将[25]の独逸視察談及び映画。ナチス独逸の明朗側だけを示したるものなれども省みさせられる所多し。

四月十九日（日）

午前 7 時起床。習字少しく 朝食後灸点。午前中雨。宅にて著書原稿作製。

午後 2 時妻と共に戸塚植木会社見物。柊柏等購入 夕刻帰宅。夜 胸部灸点。

四月二十日（月）

午前 6 時起床 ラヂオ体操。朝食後灸点，10 時すぎまで宅にて著書原稿。10.23 電車にて出社。

正午，雑音会。広瀬理財局長[26]招待。

午後著書原稿作製。午後 7.20 電車にて帰宅。

〔1 行空き〕

昨夜より脚部にダルサを感ず。運動の為めか或は灸点の為めか。

四月二十一日（火）

午前 5.30 起床。7.38 電車にて出社。財界概観執筆，午後 7 時まで。

夕食後著書原稿修正 9.20 電車にて帰宅。

夜 就床後一部灸点。

四月二十二日（水）

午前 6.30 起床。朝食後書面二三認め，大阪宮川氏に東洋経済会構成につき打合せ上京を促す。

午前 10 時まで著書原稿整理。10.23 電車にて出社。Prof. Allen に発送する調査説明執筆。

午後 3 時より編輯会。6.23 電車にて帰宅。

鈴木文治氏[27]鎌倉引上の由にて送別会あり，南浦園。7 時 30 出席す。

四月二十三日（木）

午前 6 時起床。終日在宅。Oriental Economist の leading article（Budgetary System）[28]修正，夜 10 時まで。後 11.30 まで著書原稿整理。

夕食後灸点。

昼間午前及び午後庭に出づ。

（24）講演題目は「我国経済の現状と将来」（『全集』⑮，p. 191）。

（25）伍堂卓雄（1877–1956）。海軍造兵中将。当時昭和製鋼所社長，満鉄理事。のち林内閣で商工大臣・鉄道大臣，阿部内閣で農林大臣。伍堂は 1935 年 11 月に渡欧し約 3 か月にわたりドイツを視察して帰国した（『東京朝日新聞』1936 年 4 月 12 日朝刊）。

（26）広瀬豊作（1891–1964）。大蔵官僚。のち鈴木内閣で大蔵大臣。

（27）鈴木文治（1885–1946）。労働運動家，政治家。1911 年に友愛会を設立し，その後同会の労働組合化を進める。この年 2 月の衆議院選挙で東京 6 区から社会大衆党公認で立候補し当選。『全集』⑮，p. 375「年譜」には，この送別会が翌 23 日の出来事として採録されている。

（28）“Budgetary System in Japan”, *O.E.*, Vol. Ⅲ No.5. （『全集』⑮，p.125）。

四月二十四日（金）

午前 6 時起床。著書原稿整理 午前 8.8 電車にて出社。Dr. Boody への書面等認め。

正午 倶楽部午餐会。帝大教授青木保[29]氏講演精密工業に就て頗る興味あり。

午後 6.53 分電車にて帰宅。今夕は早く就床。

四月二十五日（土）

午前 6 時起床 朝食後上半身灸点。午後下半身灸点。

終日在宅 午前中外商業の為め原稿執筆[30]，午後 1.40 分の速達にて発送。

午後 神奈川県庁にての講演修正，夜 10 時まで。

〔1 行空き〕

本日終日大雨。

〔1 行空き〕

本日ヨリ漢薬一時中止（3 月 7 日より服薬。~~27 日分~~）

四月二十六日（日）

午前 6 時起床。午前 10 時まで講演会の為め講演修正。夜も同様 9.30 終る。

午前 10 時すぎより家族一同にて江ノ嶋に散策 岩本楼にて昼食。午後 5 時帰宅。

夜 講演修正を終る。

四月二十七日（月）

午前 6 時起床 ラヂオ体操。7.53 電車にて出社。財界概観執筆，午後 7 時まで。夕食をしたゝめ午後 8.53 電車にて帰宅。

四月二十八日（火）

午前 6 時起床 ラヂオ体操。在宅 午前中 Prof. Allen 及 Prof. Gustav Cassel[31] に書面原稿認め。

British Industry & their Organization by Allen[32] を読む。

午後 著書原稿整理第三章を終る。第四章にかゝる，夜 11 時まで。

午後灸点。

四月二十九日（水）

午前 6 時起床 ラヂオ体操。朝食後灸点。

著書原稿修正 午前 9.23 電車にて出社。Oriental Economist Leading article 一篇作製（日本の金利）

午後 2 時より編輯会。午後 5.53 電車にて帰宅。車中にて

W〔U〕.S.S.R Chamber of Commerce 発行 Economic Survey にて Stalin's speech at the First All-Union Conference of Stakhanovites を読む。

（29）青木保（1882–1966）。機械工学者。当時，東京帝国大学工学部教授。

（30）「馬場蔵相は信念を喪失せるか」『中外商業新報』4 月 27 日号「中外週評」（『全集』⑮，p. 124）。

（31）Cassel, Karl Gustav（1866–1945）。スウェーデンの経済学者。石橋はカッセルの購買力平価説を基に新平価金解禁を主張した。

（32）Allen, G. C., *British Industries and Their Organization* (London and New York: Longmans, 1933).

四月三十日（木）

午前 6 時すぎ起床。朝食後頭部だけ灸点。本日左耳の疼痛多し。午後に至るも止まず。

午前 8.48 電車にて出京。10 時より調査局財政専門委員会，一般的意見開陳。

午後 1 時出社。雑用甚だ多し。大杉氏来談。

午後 5 時 37 分電車にて帰宅。夕食後灸点。

夜，著書原稿整理，12 時過ぎまで。

〔2 行空き〕

内山徳治[33]健康未た宜しからぬ由。馬場氏につき灸点をなすべき旨 書面にて申送る。

MEMO 欄

4 月中為したる仕事。

原稿

Review of the Month（1–2 日） Budgetary System 修正

主婦之友（4 日）400 字 1 枚

講演速記修正（5–6 日） 神奈川県庁仝前（25–26 日）

社説（7 日） 財界概観（21 日）（27 日）

時事新報（16 日） Oriental Economist Leading article（29 日）

中外商業（25 日）

講演　　発書

日本国際協会（4 日）Dr. Boody（24 日）

東京織物同業組合（17 日）

Prof. Cassel（28 日）

Prof. Allen（28 日）

〔1 行空き〕

訪問　　調査

鮎川氏（8 日） Prof. Allen に発送ノモノ（22 日）

内閣調査局（30 日）

〔1 行空き〕

来客

Francesco Tamagna（9 日）

Chamberlain（11 日）

〔1 行空き〕

座談会　　病気

社座談会（10） 風邪（13–15 日）

五月一日（金）

午前 6 時前起床。ラヂオ体操。朝食後庭に出づ。午前 8.53 電車にて出社。午後 5.53 電車にて帰宅。夕食後灸点。

〔1 行空き〕

原稿＝著書（第二産業革命下の日本経済）第四章原稿整理 社にて

社務＝金利，増税，統制経済三討論会開催討論者招待状執筆。（社にて）

〔1 行空き〕

読書＝Cassel, Monetary Prospects (Skandinaviska Kreditaktiebolaget, No. 2, 1936)－電車中

Keynes, General Theory.[34] －夜。

五月二日（土）

午前 6 時前起床 ラヂオ体操。朝食後庭に出づ。午前中 庭中のボタン及藤花を写生。

（33）内山徳治は東洋経済新報社社員（1927 年入社）。

（34）Keynes, J. M., *The General Theory of Employment, Interest and Money* (London: Macmillan, 1936). 2 月に出版された同書を石橋はいち早く入手して読んでいる。

午後 昼寝。灸点。午後 3 時まで。終日在宅。

〔1 行空き〕

原稿－著書原稿第四章作製 午後 3 時－12 時。

五月三日（日）

午前 6.30 起床。朝食後灸点。朝の内雨後晴。庭に出で湛一と共に道路を造る，午後 5 時まで。昼食及茶は庭にて認む。

夜 疲労して早く休む。

〔1 行空き〕

夕食後ウガヒの際 神経痛発作一回（軽微）を感ず

五月四日（月）

午前 6 時 30 起床。朝食後 床やに赴く。

午前 8.53 電車にて出社。午後 5.07 電車にて帰宅。

〔1 行空き〕

会合－正午 雑音会 銀行局長[35]招待。夜湘南組合役員会。

書面－上野山永之助。㋮組合長■氏に封書。共に湘南組合の件。前氏には ￥86.66 送金す。

読書－A Hundred Years of Joint Stock Banking.[36] 本日 McKenna 氏より寄贈を受け汽車中にて少読。

社会－本日第 69 議会開院式 天皇陛下親臨。先般の不祥事件に言及せる未曾有の勅語[37]を下賜。

五月五日（火）

午前 6 時前起床 ラヂオ体操。午前 7.53 電車にて出社。

~~財界概観~~ 夜 8.53 電車にて帰宅。

〔1 行空き〕

原稿－財界概観

読書－A Hundred Years of Joint Stock Banking. 特に Holden の伝を読む。

〔1 行空き〕

健康－神経痛 疼痛 本日午後頻発 但し苦痛に感ずる程に非ず。

五月六日（水）

午前 6 時前起床 ラヂオ体操。朝食後灸点。午前 810.53 電車にて出社。午後 4.23 電車にて帰宅。

〔1 行空き〕

原稿－時事新報（社会的藪医の氾濫）[38]宅にて午前社にて Leading article 英文修正。(Interest rato〔ママ〕)

講演準備－夜 資本主義の修正につき明日東京市財務課員の為め。

編輯会－午後 3 時より。

〔1 行空き〕

健康－本朝より再ひ服薬（馬場氏処法）疼痛軽微なれと屡々あり。

（35）和田正彦か。この年，3 月 13 日付で大蔵省銀行局長に着任（大蔵省財政金融研究所財政史室編『大蔵省史――明治・大正・昭和――第 4 巻』大蔵財務協会，1998 年，p. 461）。

（36）Crick, W. F., & J. E. Wadsworth, *A Hundred Years of Joint Stock Banking* (London: Hodder & Stoughton, 1936).

（37）勅語中の「今次東京に起れる事件は朕か憾とする所なり」を指す。

（38）「社会的藪医者の氾濫」『時事新報』5 月 9 日付（『全集』⑮，p. 124）。

五月七日（木）

午前 6 時起床 ラヂオ体操少許。朝食後灸点。9.53 電車にて出社。Review of the Month 準備。

正午 倶楽部午餐会 小林一三氏[39]帰朝談。終りて五階にて小汀氏[40]より 議会秘密会に於ける陸相の二二六事件答弁内容を聞く。

馬場医学士来談。

〔1 行空き〕

講演－午後 5 時より 東京市財務局員の団体にて，資本主義は如何に修正すべきや。

午後 8.30 品川発電車にて帰宅。

〔1 行空き〕

疼痛軽微なれども多し。食事稍や困難

五月八日（金）

午前 6 時前起床 ラヂオ体操。朝食後灸点。午前 9.03 電車にて出社。

午後 5.30 杉野氏亡夫人法会（偕〔ママ〕楽園）に赴き焼香せしも，神経痛不良につき直ちに辞去。午後 5.55 新橋発帰宅。

〔1 行空き〕

原稿－Review of the Month.

読書－○ The Downfall of the Gold Standard By Cassel.[41]

○ British Industries by Allen.

五月九日（土）

午前 6 時起床 8.23 電車にて出社。

〔1 行空き〕

原稿－Review of the Month 午前中に執筆終り。

〔1 行空き〕

健康－昼食を取らんとせるに激痛発生す。室に帰りて休息。

月曜日より休社の予定にて夫々用務を処理し，帰宅。電車中にて激痛一回。帰宅後一回。

大石氏の勧めにより Sanatogen を今夕より用ゆ。

夕食より横臥のまゝ食事を摂る。

五月十日（日）

臥床のまゝ朝食を摂る。

〔1 行空き〕

本日までに内閣調査局に税制改革に就き意見書提出すべき筈なりしも出来ず。其他病気再発の為め次ぎの先約を断る。

○社及倶楽部座談会　5 月 11 日，15 日，20 日。
○東京市中小商工業問題委員会　5 月 12 日。
○簡易生命保険局講演　5 月 14 日。
○橘会　〃
○新聞連盟寄稿　5 月 15 日まで
○坂口武之助氏[42]訪問　5 月 17 日
○時事新報原稿　5 月 20 日
○大日本織物協会講演　5 月 23 日

（39）小林一三（1873–1957）。実業家。慶應義塾出身。当時，阪急電鉄会長，東京電燈社長。

（40）小汀利得（1889–1972）。経済評論家。当時，中外商業新報編集局長。金解禁論争では石橋湛山らとともに新平価四人組として活躍。のち日本経済新聞社社長。

（41）Cassel, G., *The Downfall of the Gold Standard* (Oxford: Clarendon Press, 1936).

五月十一日（月）

終日臥床 午後床中にて Review of the Month 校正。

五月十二日（火）

終日臥床

五月十三日（水）

終日臥床

五月十四日（木）

終日臥床

五月十五日（金）

終日臥床。臥床安静を保つも折々激しき発作的疼痛あり。困難す。

服薬は口中を刺激する為め全く廃止す（漢薬及び西洋薬とも）

灸点も起臥困難なる為め廃止す。

五月十六日（土）

終日臥床

五月十七日（日）

終日臥床。但し今朝石田歯科医を招き，嘗つて神経を摘出したる歯の詰替を試む。

発作的疼痛激し。

五月十八日（月）

終日臥床。石田歯科医に早朝来診を乞ひ歯の詰替を継続施行す。併し効果無し。

〔1 行空き〕

正午 社神原氏に電話。仝氏を煩し都築帝大(43)教授に治療依頼。明日午前 11 時仝外科に赴く筈。

五月十九日（火）

午前出発前発作的疼痛継続。外出困難に感じたるも，人力車も已に来り，押して家を出づ。電車中も疼痛相等〔ママ〕に継続す。午前 9.53 鎌倉発。妻同伴。

午前 11 時帝大着。直ちに 都築外科 12 号室に入院。

午後 6 時第 1 回注射を行ふ。口唇に激痛（注射の際）感ず。併し元気なり。

五月二十日（水）

今朝 激しき痛は去りたるも 尚ほ歯齦及舌部に局部的疼痛残存す。

午後 3 時 舌部に第二回注射。前日のも本日のも薬はネブカイン 神経痛の疼痛は殆と去る。

〔1 行空き〕

読書－Oriental Economist

五月二十一日（木）

今朝舌部に 食事の際 若干の間断的痛〔疼ヵ〕痛残るのみ。終日処置無し。但し入院以来 沃

（42）坂口武之助（1867–1937）。税関監査官，商学者。立教大学商学部教授を務めた。坂口は「本邦輸出入品詳解」を『東洋経済新報』に 1916 年 5 月 5 日号から 1930 年 10 月 25 日号まで断続的に発表（三浦鐵太郎「坂口君は斯ういふ人であつた」『坂口武之助君追悼録』市町村雑誌社，1939 年，p. 137）。

（43）都築正男（1892–1961）か。医学者，軍医。

度加里剤服用。
社務＝午後斎藤氏[44]を招き Oriental Economist につき編輯上の注意を与ふ。
〔1 行空き〕
読書－Oriental Economist.

五月二十二日（金）
今朝 疼痛一層減退。久しぶりにてうがいを行ひ又床の上におきて自ら食事をとる。
終日 別段の処置なし。
〔1 行空き〕
本日午後 坂口武之助氏見舞に来院せられ，長談話に少しく疲労す。
社務－午後 神原氏を招き，私の秘書設置の件，人員配置の研究 工場の件等に就き用談。

五月二十三日（土）
引続き良好。朝うがいをなし，三食とも床の上にて自ら箸を取ること前日に等し。
本日午後~~坂口武之助~~石沢久五郎氏[45]見舞に来院。
社務－午前斎藤氏を招き，米濠の日本商品輸入■返策につき材料彙集を依頼，又 それにつき六月号 Oriental Economist の編輯方針を与ふ。
〔1 行空き〕
読書　Oriental Economist. 東洋経済。
Keynes，General Theory.

五月二十四日（日）
容態等前日に等し。
本日午後 妻，湛一，ウタ子 来院。横臥のまゝ読書する 書見器を購求して来て呉れた。直ちに用ゆるに工合宜し。
〔1 行空き〕
読書－Keynes，General Theory.

五月二十五日（月）
今朝 食事中も疼痛を全く覚えず。午前 9 時すぎ院内床やにて理髪。
午後 2 時すぎ退院。妻，湛一，和彦，野沢来。直ちに帰宅。
帰宅後 疼痛少しくあり（茶を飲む際）。会計を一通り片付け臥床す。
夜久しぶりに入浴。
〔1 行空き〕
社務－午~~前~~後~~斎藤~~山田氏を招き編輯上の打合を行ふ。
読書－Keynes，General Theory.

五月二十六日（火）
午前 6 時起床。朝食後庭に少しく出づ。疼痛昨日よりも多し。昼食時にも疼痛あり。（舌部）
午後 2 時永峰氏来（昨日の命令に依り） 原稿を渡す。明後日再来客の筈。
〔1 行空き〕
原稿－社説 原料政策再検討の必要愈よ急[46]。

（44）斎藤幸治は東洋経済新報社社員（1933 年入社）。
（45）石沢久五郎（1870–1938）。ジャーナリスト。『本邦銀行発達史』（同文館，1920 年）などの著書がある。石橋の妻うめ（梅子）は石沢の従妹（石澤前掲「石澤久五郎」，p. 52）。
（46）『東洋経済新報』5 月 30 日号「社説」（『全集』⑮，p. 125）。

読書－Kropotkin, Great French Revolution[47]
等。
Keynes, General Theory
〔1 行空き〕
Keynes は 臥床見台にて読む。

五月二十七日（水）

午前 6 時起床。朝食前少しく庭に出づ。しやくやくの花を切り書斎にさす。食事中 疼痛少しく。今日冷気強く雨降る。夕食事〔ママ〕疼痛の工合少しく悪。
原稿－The O. E. Leading article (Money rate) 修正
仝 “英米の対日挑戦” 原文考案。
〔2 行空き〕
読書－Charles Seignobos, History of Mediaeval Civilization[48]（Revolution of 1688 に至る英国史）
Keynes, General Theory.
〔1 行空き〕
服薬－昨夜より処法を眞鍋内科のそれに改め，沃度加里，ブローム加里を用ゆ。

五月二十八日（木）

午前 6 時起床。天気悪しく冷気強し。疼痛の状況昨日と略ぼ同様。午前石川彦四郎[49]氏見舞に来。永峰等社等の為め来。
原稿－Leading article （日〔ママ〕濠の対日経済的挑戦）[50] 永峰氏筆記。
読書－東洋経済三十日号。Keynes, General Theory.
〔3 行空き〕
社務－朝 神原氏に書面，倉庫建築，編輯室及地下図書室整理の件。大原氏を秘書に起用する件。

五月二十九日（金）

午前 6 時起床。朝食後少しく庭に出で，又書斎にてやしくやく〔しゃくやくヵ〕の写生を試む。疼痛（舌部）継続。
〔2 行空き〕
原稿－中外商業の為め（スタカアノフ運動とスターリン[51]）5 枚半（400 字）
読書－Keynes, General Theory.
Kropotkin, French Revolution
〔3 行空き〕
来書発書－大原万平氏より長兄一家の問題片付き安心したる旨，直ちに返書差出す。鈴木京平氏横浜市立鶴見工業実習学校長事務取扱に就任。直ちに祝状発す。

（47）Kropotokin, P. A., translated by N. P. Dryhurst, *The Great French Revolution 1789–1793* (London: William Heinemann, 1909).
（48）Seignobos, C., *History of Mediaeval Civilization, and of Modern to the End of the Seventeenth Century* (London: T. Fisher Unwin, 1908).
（49）石川彦四郎（生年不詳–1940）。石川匠務所主（家具製造）。
（50）O.E., Vol. Ⅲ No. 6 掲載の “America, Australia, and Japan” か。なお同号の Leading Articles には，以下の論説も掲載されている。 “North China Smuggling”, “Recent Tariff Changes”, “Interest Rates in Japan (Continued)”, “Income Tax and Taxable Income”, “High Gold a Boon to Mining Companies”, “Foreign Trade Still Expanding”.
（51）「スタハノフ運動の教訓」『中外商業新報』6 月 1 日付「中外週評」（『全集』⑮，p. 125）。

五月三十日（土）

午前 6 時起床。朝食後 しやくやく写生。午後も継続。

疼痛軽微に継続，且つ左側入歯附近口中工合悪しく食事困難（昨日以来）

来書－午前藤井 ■ 夫也氏夫妻来 午後 2 時すきまで。竹画一枚執筆。

五月三十一日（日）

午前 8 時前起床。雨天。午前中 しやくしやくを半折に写生す。

正午 山田秀雄氏来 社用かづかづ。

午後 21 時 松崎伊太郎氏来。氏の地主黒川の息 就職依頼の件。

〔1 行空き〕

社用－神原氏に予の秘書設置，三宅氏助手希望，工場制度改革等の件につき書面を発す。

読書－Keynes, General Theory.

Kropotkin, French Revolution.

六月一日（月）

午前 6 時起床。朝食後少しく庭に出づ。疼痛引続き舌部に少許，且つ唇部のしびれ及痛も亦未だ去らず。

〔1 行空き〕

原稿－社説（重ねて原料政策再検討の必要に就て）[52] 午前中考案，午後永峰氏来 筆記せしむ。

家族会挨拶も亦仝氏に筆記せしむ。

読書－Keynes, General Theory.

Kropotkin, French Revolution.

〔1 行空き〕

発書－小汀氏に Stakhanov の発音照会。

六月二日（火）

午前 6 時起床。朝食前少しく庭に出づ。疼痛継続。今夕後舌部の痛少しく多く鋭し

〔1 行空き〕

原稿－午前中 根津氏社説（北支密輸入問題）[53] 訂正 直ちに速達にて発送。

米国及英国に送るカルテル調査（小野氏筆）校閲。

読書－Keynes, General Theory.

Times Weekley.

〔3 行空き〕

発書－国際連盟に統計日報申込（本年 7 月–明年 6 月）

六月三日（水）

午前 6 時すき起床 朝食後 10 時まで庭に出づ。舌部疼痛少しく強し。

〔2 行空き〕

原稿－時事新報（財政支出の膨張未だ憂ふるに足らず）[54]

午前起稿。夜 湛一持参して届く。

読書－Keynes, General Theory.

〔1 行空き〕

訪客－永峰正樹氏病気見舞に来訪 午後。

（52）「重ねて原料政策の再検討について」『東洋経済新報』6 月 6 日号「社説」（『全集』⑮，p. 125）。

（53）「北支密輸入問題の解決と我國の立場」『東洋経済新報』6 月 13 日号「社説」か。

（54）「財政支出の膨張，未だ憂ふるに足らず」『時事新報』6 月 6 日付（『全集』⑮，p.125）。

六月四日（木）

午前 6 時起床。天気悪し。舌部疼痛昨日の如し 少し強烈

〔2 行空き〕

社用－午後三宅氏来 決算其他に付報告。期末賞与一個月に決定。

原稿－昨夜来著書（印刷進行中）訂正を始む。併し本日舌部疼痛少しく強きを以て休む。

読書－Keynes, General Theory. Kropotkin, French Revolution.

本日 内閣調査局研究会ありしも欠席。

発書－朝鮮山田一郎（阿部嘉蔵[55]氏親族の者）に返事

清沢洌氏返事。

六月五日（金）

午前 7 時すぎ起床 朝食後 10 時まで庭に出づ。疼痛本日は微妙。

〔1 行空き〕

原稿－午後 輸出組合（外国送りの物）永峰氏来宅読合せて決定

Oriental Economist 原稿（北支密輸問題[56]）英文訂正。

著書印刷校訂。

読書－Keynes, General Theory.

〔1 行空き〕

書面－Contemporary Japan より大石氏を通じ起稿依頼し来る。6 月末まで。承諾

六月六日（土）

午前 6 時起床。疼痛比較的軽し。朝食後少しく庭に出づ。

〔1 行空き〕

原稿－北支密輸関係 英文及和文原稿修正。朝湛一をして速達にて発送せしむ。

午前中に社説（議会制度改革の中心問題[57]）一篇起草。12.12 速達にて発送。

午後 著書校正 夜 9.30 すぎまで。

読書－東洋経済新報。

六月七日（日）

午前 7 時起床。疼痛少しく多し。

〔2 行空き〕

社用－工場長池田氏来談 工場の近況及将来の計画報告。経営方針につき指示を与ふ。

午後 7 時まで

読書－Keynes, General Theory

Kropotkin, French Revolution.

A Hundred Years of Joint Stock Banking.

来書－中込鐵一郎[58]，西田食堂経営主，小杉天外[59]の三氏

書面－在上海原田運治氏より来書 直ちに返書認む。

山田 斎藤両氏に編輯用にて書面認む。

著書校正第一回分 小山氏に送付

何れも明日湛一持参の事。

（55）阿部嘉蔵は東洋経済新報社社員（1928 年入社）。

（56）“North China Smuggling”, *O.E.*, Vol. Ⅲ No. 6（『全集』⑮，p. 125）。

（57）『東洋経済新報』6 月 13 日号「社説」（『全集』⑮，p. 125）。

（58）中込鐵一郎（1884–没年不詳）。当時，日本興業株式会社秘書（大阪毎日新聞社編『職名別日本人名選 昭和 12 年版』大阪毎日新聞社，1936 年，p. 195）。

（59）小杉天外（1865–1952）。小説家。

六月八日（月）

午前 6 時前起床。朝食後 午前中 財界概観 125 行（馬場蔵相の金利政策評）[60] 執筆。

午後 昼食後庭に出で肥料等を与ふ，夕刻まで

〔1 行空き〕

執筆－財界概観（馬場蔵相金利政策評）
125 行 11.40 速達にて発送。

著書－第二産業革命，校正，夜。

〔1 行空き〕

読書－Keynes, General Theory
~~Kropotkin, French Revolution.~~

六月九日（火）

午前 6 時前起床。本日疼痛工合悪し。終日大部分横臥睡眠。昨日庭に出でたのが悪るかつたか。

〔1 行空き〕

執筆－The Review of the Month 山田氏執筆の物を書き換へんとせしも，疼痛に依り中途にて止む。

読書－Keynes, General Theory 少許。

六月十日（水）

午前 6 時 30 起床。舌部疼痛強し。朝食困難を感ず。9.53 分電車にて出京 帝大都築氏診察を受け 午後 3.30 注射。 12 時より 3 時まで歯科医学校にて左側歯治療 社に立寄 編輯会にも一寸出席 4.53 分東京発にて帰宅。

原稿－○山田氏筆 Review of the Month 修正。

○ Leading article（Amerika〔ママ〕, Australia and Japan）[61] 修正 午前 9 時までに終る。

○ Interest Rate in Japan 原文第 3 回目本日斎藤氏に渡す

読書－Keynes, General Theory

六月十一日（木）

午前 6 時起床。疼痛稍や軽微なれども依然たり。右側の歯齦部不良に加へて食事困難

〔2 行空き〕

校正－著書 11–96 校了。午後和彦をして小山氏に届く。

仝 171–267 校正。永峰氏に托し届ける。

仝 97–170 校了。但し若干ハ要再校郵送

原稿－午後 永峰氏来。工業組合原稿読み合せすみ。

読書－Keynes, General Theory.

〔1 行空き〕

書面－病気見舞謝礼品贈呈の為め書面認む。
宮川三郎氏より大阪経済倶楽部設立の件来書。

六月十二日（金）

午前 6 時すぎ起床。天気好し。舌部疼痛依然強し 午前 9.53 妻と共に出京。予ハ帝大都築教授訪。明日再入院に決す。

午前 11 時すき社に赴く。午後 2 時すぎ妻と共に三越に赴き夏帽等を求む。

午後 4 時すぎ浅ヶ谷砂灸を野沢案内にて赴き

（60）『東洋経済新報』6 月 13 日号「財界概観」（『全集』⑮，p. 125）。

（61）*O.E.*, Vol. Ⅲ No. 6（『全集』⑮，p. 125）。

妻と共に灸治を受く。
夕刻 石沢氏宅を一寸訪。東京駅にて夕食後帰宅。午後 11 時。

六月十三日（土）
午前 6 時前起床。約に依り午前 8.30 都築外科に入院。午後注射（顔面外部より） 併し舌部疼痛完全には除かれず（軽微にはなる）

六月十四日（日）
終日 都築外科第 12 号室に在り 安静。

六月十五日（月）
午前 10 時頃再び注射。一昨日のそれと同様なり。舌部疼痛当尚ほ除かれず。併し軽微に赴く。
午後 4 時すぎ退院。5.07 分東京発電車にて帰宅。
〔1 字空き〕
社用－午前 斎藤氏を病院に招き Oriental Economist 打合を行ふ。
〔1 行空き〕
~~発書－講習演説（経済に現れたる我国力の現勢と将来）~~
~~身延布教部，鈴木醇（返書） 小野俊三（返書） 宮川三郎（返書）~~

六月十六日（火）
午前 6.30 起床。終日書斎にて横臥。疼痛舌部に残るも軽微。
然るに夕食時稍や強く，午後 9 時 30 服薬の刺激にて舌部に継続的疼痛発生す。工合甚だ悪しきを認む。
〔1 行空き〕
読書－Keynes, General Theory.

六月十七日（水）
昨夜疼痛の状況悪しかりし為め今朝は床中にて食事を摂る。
〔1 字空き〕
午前書斎にて書面数通認む
神原氏－社員増俸案再調査の件等。宮川氏よりの来書も廻はす。
身延山布教部－講演通知（経済に現れたる我国力の現勢と将来）
其他－鈴木醇，小野俊三，宮川三郎諸氏へ何れも返事
午前 11 時より再ひ臥床。
来客－午後 4 時頃石沢久五郎氏来訪。夕食を共にす

六月十八日（木）
~~今朝 床中にて食事。~~
午前 6 時起床。本日は工合良し。
午後床也〔ママ〕に行く。
〔1 行空き〕
~~社用－神原氏に書面。社員増俸等の件。其他雑用。宮川氏よりの書面 神原及三宅に廻す。~~
〔1 行空き〕
校正－著書再校の件。

六月十九日（金）
午前 6 時すぎ起床。疼痛あれども比較的軽し。朝食後書斎にて書類整理 10 時頃まで。午後寝室にて臥床。

昼食後書斎にて横臥。
午後 2 時 30 頃 約に依り清沢洌氏来談 夜 8 時前まで。論文執筆。社会思想叢書計画等につき相談。
〔1 行空き〕
読書－Keynes, General Theory.

六月二十日（土）
午前 7 時前起床。疼痛昨日よりも更に軽し。
書斎にて横臥。又庭にも少しく出づ。
〔1 行空き〕
原稿－財界概観少許。
午後永峰氏来。英訳用貿易政策原稿読み合せ。午後 6 時前まで
読書－Keynes, General Theory.
〔1 行空き〕
夕刻 草間未亡人令嬢同伴来宅。9 時すぎ帰京

六月二十一日（日）
午前 7 時起床。疼痛引続き軽し。
午前 11–12 庭に出で（細雨を冒し）湛一を相手に池の水蓮手入。
〔1 行空き〕
読書－Keynes, General Theory.
社用－午後 3 時三宅氏来宅。先般神原山田三宅三理事にて立案せし社員増俸案を再修正して決定す。

六月二十二日（月）
午前 6 時起床。疼痛少し。
〔1 行空き〕
原稿－午前午後に亘り，財界概観 100 余行執筆（財閥の株式開放）(62)
読書－Keynes, General Theory 少許。
Hundred Years of Joint Stock Banking.
〔1 行空き〕
来書－三宅氏より，彼の俸給が山田小倉等より少額なることを発見したりとて大に憤慨
〔1 行空き〕
発書－坂口武之助氏 名霊鉱泉問合せ
清沢洌氏 小川ドクトルの件

六月二十三日（火）
午前 6 時起床。午前 8.53 電車にて出社。併し未だ山田，内山，三宅等何れも出社せず。
久しぶりにて三浦氏と会談 三宅より昨日何れかの学校に講師として世話し呉れと（喰へぬなら）依頼せられたりと。詳細事情を報告す。
正午 久しぶりにて倶楽部午餐会に出席。外務省課長宮川舩夫氏(63)の蘇連邦憲法に就て。
〔1 行空き〕
社用－午後 3 時頃より 4 時頃まで三宅を主幹室に招致 彼の不心得を諭し，且つ已むを得ずば退社すべき旨を申渡す。考慮の上返事ある筈。
午後 4 時すぎ清沢氏の案内にて小川歯科ドクトルの診察を受く。陶々亭にて清沢氏に晩餐の饗応を受け帰宅。

---

(62)『東洋経済新報』6 月 27 日号「財界概観」(『全集』⑮，p. 125)。
(63) 宮川舩夫 (1890–1950)。外交官。当時，外務省調査部第三課長。宮川はこの日，「ソヴィエート国の新憲法制定」と題して経済倶楽部で講演している (『経済倶楽部 50 年』上，p. 164)。

六月二十四日（水）

午前 5.30 起床。疼痛少なし。

〔1 行空き〕

社用－午前中 馬場蔵相に書面認む。仝氏の講演冊子を発行したるに対する苦情を一昨日仝氏より申越したるに対し。

読書－Keynes, General Theory.
吉村冬彦 蒸発皿

六月二十五日（木）

午前 6 時すぎ起床。疼痛至つて少し。

午前中 日豪貿易調整策を考へしも名案なし。

午後 日本金融史の計画を立つ

〔5 行空き〕

読書－Keynes, General Theory.

六月二十六日（金）

午前 6 時すぎ起床。午前中色紙を三枚描く。

日下部先生展覧会出品の為め。

〔1 行空き〕

社用－馬場蔵相より来書。冊子の件他意なき旨 直ちに礼状認め発す。

〔1 行空き〕

読書－ Keynes, General Theory.

〔1 行空き〕

原稿－日本金融史草案。

六月二十七日（土）

午前 6 時 30 起床。疼痛少し。

〔4 行空き〕

原稿－夜 11 時まで日本金融史執筆。午後永峰氏来 英米送の原稿読合を行ふ。

社用－三宅氏より彼の態度釈明し来る。三十日午前会談すべき旨返事。

〔2 行空き〕

読書－Keynes, General Theory

六月二十八日（日）

午前 8 時起床 終日雨強し。

〔1 行空き〕

原稿－日本金融史執筆，第 5 章を終る。

〔1 行空き〕

社用－正午 大阪より宮川氏来。大阪経済倶楽部の件，事務所を至急求むべき旨指令す。

〔4 行空き〕

発書－高岡市水上氏より病気見舞を送らる。返事認む。山崎覚次郎氏[64]より講演依頼あり 断状

六月二十九日（月）

午前 6 時すぎ起床。雨降る。併し午前及午後少しく庭に出づ。

〔1 行空き〕

原稿－~~Review of the Month~~ 英文雑誌社説 再発せる軍備競争（清沢氏筆）[65]修正。
A Hundred Years of Joint Stock Banking 批評[66]

（64）山崎覚次郎（1868–1945）。経済学者。当時，東京帝国大学名誉教授，中央大学教授。山崎は 1932 年に設立された通貨制度研究会で石橋とともに研究しており，通貨制度研究会が発展してできた金融学会にも参加している。

（65）“The Renewed Armament Race”, *O.E.*, Vol. Ⅲ No. 7.

〔1 行空き〕

読書－Keynes, General Theory.

A Hundred Years of Joint Stock Banking.

六月三十日（火）

午前 6 時起床。

午前 8.23 電車にて出社。

午前中，神原，山田両氏と社務打合せ。三宅氏に再訓戒且社務打合せ。野沢にも同様。

正午，富田財務官[67]を招待 雑談会。

午後 3 時 伊藤重治郎氏[68]来談，百貨店問題。

夕刻 三浦氏と三宅氏の件等につき談話。

午後 5.23 電車にて帰宅。

〔1 行空き〕

原稿－夜，時事新報原稿（小商業者の存立難[69]）

執筆 10.30 まで。

付記：本研究は JSPS 科研費 JP20K01452 の助成を受けたものである。

（66）“BOOKS AND PUBLICATIONS”, *O.E.*, Vol. Ⅲ No. 7.

（67）富田勇太郎（1883–1946）。官僚，銀行家。富田は当時海外財務官。のち満州興業銀行総裁。7 月 3 日に「最近欧米の経済事情」と題して講演している（『経済倶楽部 50 年』上，p. 164）。

（68）伊藤重治郎（1878–1964）。商学者。当時，立教大学教授，日本百貨店商業組合事務長。

（69）『時事新報』7 月 2 日付「財界時評」（『全集』⑮，p. 125）。